

内 秘
令和 5年12月26日

各 所 属 長 様

総 務 部 長

令和5年度市長奨励賞及び善行賞の授与について（通知）

このことについて、先に職員（団体を含む）の各種活動状況調査を行い、各部局からの推薦をもとに審査・選考した結果、下記のとおり選出いたしました。また、賞の授与につきましては、各部局長を通して該当者（所属）へ授与いたしますので、併せて、お知らせいたします。

（秘書広報課秘書係）

記

令和5年度受賞者（所属）及び受賞理由

1 市長奨励賞

【職務上】

① 未来創造部 交通政策課

多様な関係者と連携を図りながら推進をしている公共交通政策が評価され、国土交通省関東運輸局地域交通優良団体として表彰された(R4.12.15)。独禁法特例法を活用し、市内を運行する乗合バス6社が共同経営の協定を締結、重複する路線のダイヤを調整し、最大15分間隔の等間隔運行を実施することで待ち時間の平準化を行い、利用者の利便性向上に寄与した。また、Ma e M a a S（マエマース）（前橋版M a a S）を導入し、シームレスな交通環境の形成に加え、交通系ICカードとマイナンバーカードの認証連携を実現したことで、交通系ICカード1枚での市民認証割引を実施する等、市民の公共交通利用促進にも寄与。公道で営業運転するバスにより自動運転の実証実験を実施、複雑な経路における自動走行や遠隔監視、顔認証技術等の様々な検証を行い、完全自動運転技術の確立に寄与するとともに、バス業界が抱える運転者不足問題の解消に取り組んでいる。

② 未来創造部 交通政策課

多様な関係者と連携を図りながら推進をしている公共交通政策が評価され、国土交通大臣表彰を受賞した(R5.12.13)。Ma e M a a SをG u n M a a Sとして取り組みを拡大し、シームレスな交通環境の形成に加え、交通系ICカードとマイナンバーカードの認証連携により市民や年齢等の属性に応じたサービスを群馬県内はもとより、全国へ横展開できる基盤の構築を実現し、利用者の利便性向上と公共交通利用促進に寄与。公道で営業運転するバスにより自動運転の実証実験を実施、複雑な経路における自動走行や遠隔監視、顔認証技術等の様々な検証を行い、完全自動運転技術の確立に寄与するとともに、バス業界が抱える運転者不

足問題の解消に取り組んでいる。

③ 前橋市 DX 推進計画ワーキンググループ

前橋市DX推進計画に基づき、令和5年度は9つの組織横断のWG(制度デジタル化WG、マイナンバーカード普及・活用WG、BPR推進WG、ミライズWG、貸館予約システムWG、内部統制のDX推進WG、官民データ活用WG、地域社会のDX推進WG、デジタルデバインド解消WG)が活動、市役所内外でのDX推進に向けて活動し、それぞれ成果を生み出している。

ひとつの例として、若手有志職員で構成されているミライズWGでは、市役所業務での文章生成AI(ChatGPT)の利用開始にあたり活用マニュアル「Smart-GPT」を作成した。利用開始1か月で約350人の職員が利用登録しており、文章生成AI(ChatGPT)の利用開始に貢献。活用マニュアルには、使用ルールや使用方法だけではなくミライズWGの職員が、自身の体験を踏まえた活用事例を掲載し市内での利用促進を考慮し作成されている。この他、個々の職員が有する能力を相互に活用した業務の生産性向上や価値創出を目指し、働き方の柔軟性を高める人財バンク(「たすけあい+」)の実現に向けて取り組んでいる。この他のWGにおいても、新たな業務の進め方や地域活動の活性化に向けたDXの取り組みを積極的に検討・実装を進めている。

④ 市民部 市民課

企業や自治会、商業施設や福祉施設などでの出張申請やQUOカードを活用したマイナンバーカードの普及促進キャンペーン、コンビニでの各種証明書交付の手数料減額、カード申請に係る郵便局への業務委託などの取組を実施。結果、申請率はR5年1月末時点で7割を超え、デジタル田園都市国家構想推進交付金の申請要件も達成し、マイナンバーカードを活用した交通系事業サービスの向上に貢献した。3月末に申請率は8割を超え、10月末現在、12市でトップの申請率となっている(R4年度1年間で約8万枚を交付)。また、高い申請率や積極的に出張申請を実施している先進自治体として、総務省が視察に訪れている(R5年度3回)。

⑤ 福祉部 社会福祉課

生活保護業務の効率化を図るため、新たなシステムを導入した。これまでシステム外で別管理していた「保護台帳」や「ケース記録」などをシステム内で一元管理できるようにしたことで、情報の検索性と共有性を高め、各種照会回答作業などの内部事務の効率化を図った。また、新たなシステム導入を契機に、ケースワークの負担を減らす仕組みづくりとして、金融機関照会のオンライン化と訪問業務のタブレット化の2つに取り組んだ。各金融機関への照会データの作成や照会結果の取り込みを自動化し事務コストの削減を実施。訪問業務のタブレット化では、訪問先でタブレット入力した内容をシステムに取り込むようにし訪問業務の効率化を図った。480時間/年の業務時間が削減され、ペーパーレス化等による執務環境の向上が、職員の業務への集中力向上にもつながっている。

⑥ 福祉部 介護保険課

訪問調査業務では、市職員の認定調査員へ専用タブレット端末を配布し、調査の依頼から調査票の作成、提出に至るまでを端末内で完結、492時間/年の業務

時間、107,975枚のペーパーレス化を実現した。介護認定審査会では、オンライン会議一体型ペーパーレスシステムを導入し、審査委員へ専用タブレット端末を配布し、審査資料をクラウド上で電子的に共有できる仕組みとし、審査会をオンライン会議に切り替えたことで、要介護認定審査会のデジタル化による1,722時間／年の業務時間削減、370,128枚のペーパーレス化、415万円の経費削減を実現した。

介護認定業務のデジタル化や効率化により、要介護認定に要する期間が前年度より短縮され、認定結果を早く届けることができ、市民サービスの向上に貢献しており、行政視察の問い合わせが複数ある等、他自治体からも注目されている。

⑦ こども未来部 こども支援課 専門員 木村 早苗

35年以上にわたり、保健師として公衆衛生事業に従事した業績が認められ、公衆衛生事業功労者に推薦され日本公衆衛生協会会長表彰を令和5年2月に受賞した。

昭和60年4月に前橋市に入職以来、母子保健、成人保健等の各種健康教育・相談等に従事し、また保健推進員等の団体と健康づくりに関する地区組織活動の推進を行った。平成30年には保健予防課感染症対策係長とし感染症対策、予防接種業務を牽引し、新型コロナウイルス感染症の流行後はその対策の先頭に立ち指揮をとった。令和3年からは子育て支援課長として、児童福祉施策と母子保健施策の更なる連携推進に尽力し、令和5年4月からのこども未来部創設に多大な貢献を行った。

⑧ 健康部 健康増進課 副主幹 織田 浩史

13年の長きに渡り、保健衛生業務に従事し職務に精励していることが高く評価され、全国政令市衛生部局長会会長表彰を受賞し、本年10月、全国政令市衛生部局長会の表彰式にて、全国の受賞者26名のうちの1名として表彰された。常に事務能率や市民サービスの向上等に向けて努力を惜しまず研鑽を続け、誠実に職務に精励し他の職員の模範となっている。

⑨ 健康部 保健予防課 感染症対策担当係長 市田 昌宏

10年の長きに渡り、保健衛生業務に従事し職務に精励していることが高く評価され、全国政令市衛生部局長会会長表彰を受賞した。保健所では、保健総務課、衛生検査課、保健予防課に属し、保健予防課では新型コロナウイルス感染症の急拡大期に、想像を超える勤務時間のなか、持ち前の体力と気力で心身の不調をきたすことなく業務を遂行しつつ、周囲の職員の体調を気遣い休暇の取得勧奨をするなど、他の職員の模範となっている。

⑩ 健康部 衛生検査課

食品衛生監視業務の遂行に必要な知識の習得及び技術の研鑽を図ることを目的として、国が毎年開催している「全国食品衛生監視員研修会」において、令和4年度に衛生検査課が発表（関東甲信越静岡ブロック選出）した演題、「表示にないプロピレングリコールが生めんから検出された2事例について」が、最高賞である優秀演題に選出され(他にも4つの演題が優秀賞を受賞)、「厚生労働省医薬・生活衛生局長表彰」を受賞した。このことは、全国で食品衛生監視業務を担う職員が、業務を遂行するうえでの有益な知見となったことに留まらず、受賞演題が

月刊誌「食品衛生研究」に掲載されたことにより、食品衛生に関する学術の発展に寄与した。

⑪ 都市計画部 建築指導課

デジタル田園都市国家構想推進交付金（TYPE 1）を活用し、「建築関連情報窓口閲覧システムの導入」及び「建築確認申請手続きの電子化」を図った。「建築関連情報窓口閲覧システム」については、一つの端末からワンストップで調査等が行えるようになったため、利用者の移動時間や窓口の待ち時間短縮につながり、利便性を向上することができた。

「建築確認申請手続きの電子化」については、申請者が来庁することなく申請を完結することができ、申請者の移動や窓口対応時間が縮減され、利便性を向上することができた。

職員の窓口対応件数が約 40%削減され、離席時間が減少し集中して業務に取り組むことができるようになったほか、電子化することでテレワークでの業務が可能となり、職員の多様かつ柔軟な働き方が選択できる環境整備を行うことができた。なお、国の規制改革実施計画に基づく基本計画において定めている建築確認申請手続きの電子化導入については、全国の特定行政庁のうち北海道庁に続き 2 番目に早い取組である。

⑫ 都市計画部 市街地整備課

長年にわたり整備を進めてきた都市計画道路県庁群大線整備事業（街路事業）において、石川橋架替工事が全日本建設技術協会より「令和 4 年度全建賞（インフラの部・都市部門）」を受賞。全建賞は、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するため、優れた建設技術により秀でた成果の得られた公共事業を表彰するものである。他の受賞例の多くが国や都道府県等の大規模事業である中、3Dモデリングによる橋梁デザインの検討や旧橋の移設保存など、新技術の活用と地域の歴史的景観保存を考慮した取り組みが高く評価された。

⑬ 教育委員会事務局 生涯学習課 芳賀公民館 主任 松岡 秀明

平成 15 年度から 18 年度まで上川淵公民館、19 年度から 22 年度まで清里公民館、23 年度から 25 年度まで富士見公民館、26 年度から 28 年度まで総社公民館、令和 2 年度から現在まで芳賀公民館に勤務している。その間、地域住民の期待を担いながら、常に真摯な態度で、創意と工夫を持って、社会教育の拠点である公民館の主力として事業運営に当たっており、地域住民から厚い信頼を得ている。

永年にわたり地域社会の振興発展に貢献したことが評価され、全国公民館連合会公民館永年勤続職員表彰を受賞した。

【職務外】

① 市民部 大胡支所 地域振興課長 横坂 浩二

昭和 59 年より大胡中吹奏楽部 O B 吹奏楽団に加入、同時に大胡町文化協会（現前橋市文化協会大胡支部）会員となり、以降、同楽団員として群馬県吹奏楽コンクールへの出場や大胡地区の文化祭、地域のまつりへの参加など、39 年という永きにわたり活動を継続している。楽団員からの信頼も厚く、約 20 年間団長としても活

躍し、地域の文化振興に寄与している。

令和5年度からは、これまでの長く豊富な経験から前橋市文化協会大胡支部の副支部長に選出され、文化協会の活動の中心となり、文化祭をはじめとした各種活動を盛り上げている。

② 環境部 清掃施設課長 木村茂樹

平成20年3月以来16年の長きにわたり、保護司として地域の更生保護活動に尽力し、その功績が認められ、平成29年10月には関東地方更生保護委員会委員長表彰を受賞した。現在も活動を続けており、犯罪や非行をした人たちの改善更生を支援し、安全安心な地域社会の実現に大きく貢献している。

③ 産業経済部 公営事業課 課長補佐 大淵賢一

平成8年、上泉獅子舞保存会に入会し、舞い方として10年近くの見習い期間を経て、レギュラーである「真役」に昇進。その後、法眼(ほうがん)という最終段階に進み、平成27年の諏訪神社例大祭をもって真役を終えた。その間、毎年10月に行われる例大祭奉納のほか、上泉伊勢守流祖祭などの地元行事や、郷土芸能大会、けやきウォーク前橋でのお正月イベント、茨城県鹿島神宮の新嘗祭など、多くのイベントで獅子舞を披露し、本市重要無形民俗文化財である「上泉の獅子舞」の普及と宣伝に努めてきた。現在は第一線を退いたものの、古参として後進の指導や裏方業務に当たりながら、引続き地域伝統芸能の普及発展に勤しんでいる。

④ 都市計画部 建築指導課長 樋口美香

平成5年から、社団法人日本建築士会連合会主催の全国研究集会にて、関東甲信越ブロック代表として「木材の有効利用—地球にやさしい木材のリサイクル」をテーマに発表するなど環境に配慮した建築に係る研究について精力的に取り組み、令和3年度に社団法人群馬県建築士事務所協会からの建築基準法等講習会開催に係る講師派遣依頼について、業務上関連する建築士会を含めた共同による開催を提案し、情報共有を図ると共に団体間の連携強化に寄与する働きかけを行った。これらの功績が認められ、令和5年5月30日に一般社団法人群馬建築士会より表彰された。

⑤ 水道局 下水道整備課 技師 石井結絵

第39回自治労水週間「ぬり絵コンクール」おとなの部(全国誰でも応募可、応募総数8,080点(おとなの部1,266点))にて副賞(全国第2位)受賞。また、日頃から創作活動を行い様々なコンクールに出展する一方、女性部発行のハンドブックの表紙作成、市民向け観光マップのデザインなどにも取り組み貢献している。

⑥ 教育委員会事務局 学校教育課 副参事 大嶋智之

平成8年に上泉獅子舞保存会に入会し、笛方として、10年近くの見習い期間を経て、レギュラーである「真役」に昇進。その後、最終段階の真吹(しんふき)に進み、平成27年の諏訪神社例大祭をもって真役を終えた。その間、毎年10月に行われる例大祭奉納のほか、上泉伊勢守流祖祭などの地元行事や、郷土芸能大会、けやきウォークまえばしでのお正月イベント、茨城県鹿島神宮の新嘗祭など、多くのイベントで獅子舞を披露し、本市重要無形民俗文化財である「上泉の獅子舞」の普及と宣伝に努めてきた。現在は第一線を退いたものの、古参として後進の指

導や裏方業務に当たりながら、引き続き地域伝統芸能の普及発展に勤しんでいる。

⑦ 教育委員会事務局 学校教育課 二之宮小学校 用務技士 中 里 仁

自転車競技を小学校1年生からはじめ、競技歴は24年。2010年開催の千葉国体にて優勝。その後、単身ヨーロッパにわたり、4年間ヨーロッパで活動。帰国後、国内で活動し、嘱託用務技士を経て、現在に至る。正規職員として従事してからは、2022年全日本選手権トラックにて4位入賞。2022年栃木国体にて、ロードレース2位に入賞した。2023年全日本選手権ロードレースは18位、鹿児島国体ロードレースは19位の成績を収めている。

2 善行賞

- ・該当なし